

第30期第11回常任理事会議事録

日 時：1999年6月21日（月）13時30分～17時00分

会 場：気象庁気象学会事務局（8階）

出席者：廣田，二宮，神沢，木田，澤井，関口，田中（博），中村（誠），新野，藤部，山岸 以上11名

その他の出席者：館（事務局）

議 事

1. 第30期第10回常任理事会議事録の確認

2. 各委員会関連議事

庶務…(財)気象業務支援センターより「気象技術講習会の実施状況及び会計報告」

- ・1998年度事業報告及び収支決算報告書の文部省への提出 6月28日予定
- ・理事辞任に伴う後任理事の登記，及び理事変更登記完了届の文部省への提出 6月28日予定

- ・定款の一部変更許可申請書の文部省への提出 6月28日予定
- ・学術著作権協会より「平成9年度複写使用料」335千円 受領 5月21日

- ・出版社著作権協議会より「平成7，8年度複写使用料」65千円 受領 6月11日
- ・日本学術会議第18期の選出に係る「学術研究団体登録申請書」の日本学術会議会員推薦管理会への提出 5月28日

- ・平成10年度「法人税（1,059千円）」を麴町税務署へ，「法人住民税・事業税（497千円）」を千代田都税事務所へ納入 5月27日

- ・国際学術研究集会への出席補助金を6月11日までに7名に対して支給

会計…1999年度5月分の収支報告。

天気…Vol. 46 No. 6 (1999年6月号)掲載記事と No. 7，8月号掲載予定記事の報告。

気象集誌…Vol. 77 No. 4 (August 1999)の掲載内容の報告。

気象研究ノート…編集作業進捗状況の報告。

総合計画…第2回気象技術講習会の告示を天気6月号に掲載予定。

教育と普及…委員会の報告。

第9回常任理事会で議論された1998年度国立19大学地学系学科主任会議による『大学入試

センター試験，理科「化学・地学」の分離に関する要望書』について，その内容を「天気」に掲載し会員にも紹介する予定であることが報告された。これに対し，要望書の提出先である大学入試センター長および文部省高等教育局長から，どういう応答があったかを調べておく必要があるという意見があった。その他，教育と普及に関して，以下のような議論があった。新しい教育指導要領が最近公表されたが，指導要領が実質的にどこで決められているのか，がわからない。それがはっきりしなければ，次回の教育指導要領が検討される際に学会として何らかの要望を出そうにも行動の取りようがない。このことに関して，情報を収集する必要がある。一般への気象学の普及ということに関しては，先の評議員会で話題になった地球環境問題とどう取り組むかが重要な課題である。このことについては名古屋大学の田中（浩）理事を委員長とした委員会で検討が行われている。

電子情報…1999年5月の気象学会ホームページへのアクセス状況の報告。「新教養の気象学」紹介の頁に300回近い参照があったのが目を引いた。

3. 会員加入状況

新入会員15名を承認，退会4名。6月10日現在，会員数4,666（内，通常会員4,136名）。

4. 山本・正野論文賞の推薦（報告）

山本・正野論文賞選考委員会より，1999年度の山本・正野論文賞候補者として2件2名の推薦があり，各理事の投票により可否を決定することになった。

5. 堀内賞候補者の推薦（報告）

堀内賞選考委員会より，1999年度の堀内賞候補者として2件2名の推薦があり，各理事の投票により可否を決定することになった。

6. 奨励賞候補者の推薦（報告）

奨励賞推薦委員会より，1999年度の奨励賞候補者として2件2名の推薦があり，各理事の投票により可否を決定することになった。

奨励賞の受賞者には，受賞対象となった研究調査内容の紹介や研究調査上での苦勞などについて「天気」に寄稿頂くように依頼する。

7. 2000WPGM および2003IUGG への対応について
2000WPGM 関連：組織委員会・実行委員会が6月7日に開かれた。大会は、代々木青少年センターで合同大会終了後引き続いて行われる予定である。気象学会としては、他学会と共同でいくつかのセッションを受け持つことになりそうである。開催に関わる経費について、赤字が出た場合、参加各学会の負担がどうなるのかといったことなどが議論になり、今後つめる必要がある（その後の組織委員会の議論で、経費は最終的にはAGUが責任を持つとの了解が得られた）。

2003IUGG 関連：実行委員会を早く立ち上げる必要がある。気象学会からも実行委員2～3名を考えておくように宿題が出た。次回7月の常任理事会で実行委員2名を決めたい。正式な依頼状は地球物理学研究連絡委員会からくるはずである。開催に係わる経費については、平成9、10年度に20万円ずつの負担を行ったが、11、12年度も同額の負担が必要である。さらに、IUGG 開催が正式に決定された場合、気象学会として総額100万円のオーダーの負担が必要となろう。具体的な費用額は、実行委員会が動き出した後、気象学会に経費負担の打診がなされる予定。

8. 日本学術会議より「科学研究費補助金の審査委員候補者の推薦（依頼）」

標記依頼に対し、細目「地球化学」の第1段審査委員候補者を2名、分科「地球科学」の第2段審査委員候補者を1名、それぞれ推薦することに決まった。

9. 総会成立（2分の1条項達成）のための方策について

各理事から事前に寄せられていた案をもとにして、議論が行われた。議論の大筋は以下の通りである。

通常会員約4,100名の内、気象官署や大学、研究機関等の何らかの組織に属する会員が約1,900名、それ以外の会員が約2,200名である。組織に属する会員については、連絡のルートがはっきりしているの、可能な限り多数の委任状が集まるような連絡体制を作る必要がある。しかし、これだけでは半数に足りないの、組織に属していない会員から、どれだけ多くの委任状を集められるかが問題である。そのために、委任状の提出方法について、葉書以外に電子メール、ファックス等の多様化が可能かについて検討すること；「天気」や往復葉書、電子メール等の手段によって、委任状の提出の催促を何度か行うようにすること；定款改訂の内容について全会員に周知すること；今後の方針を決めるために今年度の総会における委任状の集約状況の分析を行うこと；等の議論がなされた。

「天気」を通じた委任状提出の呼びかけ、総会議案の掲載などについて、総会の時期を睨んだ適切なタイミングが重要であることから、具体的方策と各方策を実施する時期についての案を秋までに作成することになった。また、各組織毎の委任状収集体制構築について検討を行う担当、総会不成立の場合の対策を検討する担当をおくことに決まった。これらについて、引き続き木田理事が中心となり具体案を検討することになった。

第17回 IGBP/GAIM 研究会のお知らせ

記

下記の日程で表記の研究会を開催します。

開催日時：1999年11月27日（土）午前中

場 所：九州大学農学部2号館（502号室）

地球圏と生物圏の相互作用を中心としたデータ解析、モデリングなどの学際的な研究の発表を募集します。発表希望者は、1999年10月末までに、発表題目を添えて下記までお申し込み下さい。

発表申し込み先：

〒305-8572 つくば市天王台1-1-1

筑波大学生物科学系

及川武久

Tel & Fax：0298-53-6661

E-mail：oikawa@oak.biol.tsukuba.ac.jp